

文庫めぐり

(24)

西尾市岩瀬文庫

〔来歴と概要〕

明治四一年、西三河随一の富豪といわれた肥料商岩瀬助が、社会奉仕の一つとして私財を投じて開設した私立の岩瀬文庫にはじまる。開設時の蔵書は一万七千五百冊。開設後も着々と本を収集し、亡くなるまで蔵書は増え続けた。弥助の遺言により昭和五年財団法人岩瀬文庫となり、長男真一郎に受け継がれたが、昭和三十年西尾市へ譲渡され、西尾市立図書館岩瀬文庫となった。その際の蔵書数は八万一千冊。平成十一年から西尾市によってすすめられた岩瀬文庫の再整備事業が、平成十五年四月に完了し、西尾市岩瀬文庫としてリニューアル・オープンした。

文庫は柳原伯爵家旧蔵の貴重書約二千冊その他貴重な古典籍を多数含むが、なんといっても本草・博物書の宝庫である。弥助が、京都の本草家山本亡羊の塾山本読書室の旧蔵本をまとめて購入し、好んで本草・博物書を収集したことによる。山本読書室本は松岡勉庵・小野蘭山・木村兼葭堂など京坂の著名本草家の著書・蔵書をよく集めている。儒医と本草塾の性格を反映し、経史詩書・医学・文学・海外情報書・蘭学関係書も多く含まれている。また、亡羊とその五子一孫の写本・校訂書・日記・随筆・雑書が多い。

これには山本榕室の『忘算窃記』『日省簿』もある。

そのほか、高木春山の『本草図説』一九五冊。朝鮮銅活字本の『政和本草』、貴志文庫本なども眼をひく。

〔蔵書目録〕

財団法人岩瀬文庫時代の『岩瀬文庫図書目録』(昭和十一年刊)がある。山本読書室本の一部については松田清・遠藤正治『山本読書室蔵書目録』と岩瀬文庫の山本読書室本(『実学史研究』X、思文閣出版、一九九四年)に収載してある。データベース化の作業が始められ、新しい目録の編纂が平成一八年完成目標ですすめられている。

〔所在地〕

〒四四五一〇八四七 愛知県西尾市亀沢町四八〇番地
TEL〇五六三・五六二・四五九

<http://www.city.nishio.aichi.jp/kaforuda/40iwase/>

〔利用法〕

休館日は月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、特別整理期間。開館時間は午前九時から午後五時まで。閲覧は一回につき三〇冊以内。マイクロフィルムからの電子複写可。指定のカメラマンによる撮影も可。

(遠藤 正治)